



優勝を目標に臨んだ今大会での3位という結果は、唯姫さんにとつて満足できるものではありませんでしたが、

憧れから追いかけた最後の夢に向かつて

昨年度、鹿児島純心女子高校1年生にして、全日本新体操クラブ団体選手権大会に出場し、仲間とともに準優勝に輝いた愛甲唯姫さん。先輩たちの足を引っ張らないように自分の役割を果たすことに集中していた昨年より、自分の役割の重要性が増した今年は、今まで以上に責任ある行動とチームワーク向上への貢献を意識するように。

コロナ禍でさまざまな大会が中止される中で、純心女子高校は、関係者のみで行う「JunshinCUP」を開催し、自分たちで企画、運営、選手も審判もこなしました。

その経験は、ハードながらも緊張感があり、試合形式で演技ができたという大きな収穫となり、また、その経験を通して、運営側の大変さを身に染みて感じた唯姫さんは、今まで以上に試合ができる環境に感謝する気持ちを持っていました。

位という結果は、唯姫さんにとつて満足できるものではありませんでしたが、憧れから追いかけた夢。最後に望むのは、「純心新体操部」としての頂点のみです。

新体操

Rhythmic gymnastics

鹿児島純心女子高校2年 愛甲唯姫さん (育英小学校出身)

令和3年度全国高等学校総合体育大会 新体操大会 女子団体3位

自分たちらしい演技を、ミスなく「ここぞの一本」で披露でき、次につながる試合となったと振り返ります。

「鹿児島純心の華麗な新体操に憧れて、純心女子中学に入学してから、毎日のように励んだ部活動では、辛いことや自分の情けなさに涙したことも数知れずありました。でも『純心新体操部』として、演技できるのもあと1年。毎日の日々を後悔なく過ごし積み重ね、最後にはやり切った終えたいです。結果は努力の分だけついてくると信じています。

見ている人の心に響くような純心らしい演技を届けられるよう、チーム全員が一丸となり、全力で新体操と向き合います」



苦悩しながらも仲間とつかんだ栄光

駅伝 Ekiden

神村学園高等部3年 久保心優さん (川内北中学校出身)

女子第33回全国高校駅伝競走大会 3位

川内北中学校出身で、もともとは短距離競技を中心に打ち込んでいた経験とスピードを武器に、長距離に転向後、頭角を現し始めた久保心優さん。

進学した神村学園高等部でさらにその才能を開花させ、昨年度、全国高校駅伝で準優勝した神村学園チームでは、2区を任せられ出走しました。

そして、高校生活最後の年、心優さんは、女子駅伝部主将となり、都大路ただ一人の経験者としてエースへと成長します。

しかし、がむしゃらに走ることをだけを考えてきた2年生時と違い、主将でエースという重圧からか、調子が上がらない日々が続く、そのスト



▲全国高校女子駅伝大会終了後、記者のインタビューに答える心優さん。

イック過ぎるほどの性格と相まって時には体調を崩してしまうことも。そうして迎えた最後の全国高校駅伝では、各校のエースが並ぶ1区に出走しましたが、そのプレッシャーからか区間17位というまさかの結果に。

それでも、チームとしては後半の巻き返しもあり、3位入賞となると、涙をこらえて気丈に振る舞い、記者のインタビュに答えるなど、最後まで名門神村学園の主将としての使命を立派に果たしました。

「自分の結果が振るわなかったとはいえ1年間、全国高校駅伝に向けてチーム全員でさまざまなことを乗り越えて来たこと変わりはありません。悔しい結果でしたが、1年間全員で戦い切ることができて良かったと思います」

その時の思いをこう振り返った心優さん。

思いのたすきは、後輩たちへと託されました。

さまざまな分野で活躍する若者たち

- 【検定】**
 - ▼ビジネス文書技能検定 文部科学大臣賞 れいめい高校2年 キャリアアップコース 20人
- 【水泳】**
 - ▼九州総合体育大会 水泳競技 100m平泳ぎ 優勝 200m平泳ぎ 優勝 川内南中学校3年 有元 優菜さん
- 【サッカー・フットサル】**
 - ▼JFA 第26回九州U-15 女子サッカー選手権大会 2位 JFA 第12回九州U-15 女子フットサル選手権大会 優勝 日置シーガルズFC 東郷学園義務教育学校9年 久保由彩子さん 入来中学校3年 岩元悠里菜さん
 - 川内南中学校1年・2年
 - 井上 絢結さん
 - 前園 侖珠さん
 - 上野 りんさん
 - 坂上 華伽さん
- 【ソフトテニス】**
 - ▼第26回九州小学生ソフトテニス選手権大会団体戦 鹿児島県選抜チームA 優勝 平佐西小学校6年 柏木 詩乃さん 高来小学校6年 横尾 華音さん
 - ▼第74回全九州高等学校ソフトテニス競技 団体戦 3位 鹿児島女子高校3年 (3人ともに川内南中学校出身)
 - 田平さくらさん
 - 岡野 陽華さん
 - 杉本 亜優さん
- 【漕艇・ボート】**
 - ▼第33回全国高等学校選抜大会 九州地区予選 女子シングルスカル 優勝 川内高校1年 林 奈央さん 男子ダブルスカル 優勝 川内商工高校2年
 - 古園 悠さん
 - 松元 恒輝さん
 - 男子舵手付クオドルブル 3位 川内商工高校2年
 - 岡田 輝さん
 - 岡田 大輝さん
 - 猪之鼻 真さん
 - 石山 瑛朗さん
 - 木口 楓斗さん
- 【軟式野球】**
 - ▼第18回九州中学生選抜軟式野球大会 優勝 川内中央中学校野球部
- 【硬式テニス】**
 - ▼第39回全国小学生テニス選手権

全国総体で見せた可能性 見据えるのは世界

川内南中学校出身で、3歳10カ月から水泳を始めたという新聞誠也さん。

中1の秋に現在のコーチとクラブチームに出会えた事が水泳人生の中の最大のターニングポイントと話します。

その言葉のとおりここから、特にバタフライ競技においては、他の追従を許さないほどの成長を見せ、中学3年生時には、すでに全国大会で入賞するなどその才能の片りんを見せつつありました。

鹿児島情報高校に進んだ昨年度には、1年生にして全国ジュニアオリンピックで3位入賞となるなど、周囲にその存在感を見せつけました。



競泳

Swimming

鹿児島情報高校2年 新聞誠也さん

令和3年度全国高等学校総合体育大会 水泳競技大会 男子200mバタフライ 3位

そして、今年度初めて臨んだ全国総体。男子200mバタフライに出場すると、4位で折り返したラスト50m、強化してきたというラストスパートで1人を抜き去るとそのまま

ゴールし、メダルを獲得しました。来年度、高校生活最後となる年、掲げる目標は、世界ジュニア選手権の出場とインターハイでの優勝。

「日本のバタフライは、代表になるのも激戦で世界的にもレベルの高い種目の一つでもあります。日本代表になり世界で活躍する選手になりたい。また、その活躍する姿を、これまで育てていただいた方々に見てもらいたいです」

誠也さんは、すでに世界に目を向け、その静かなる闘志を燃やしています。